

M. M (正会員・三重県)

田中先生の勉強会では、毎回「勉強不足の私」を実感させられています。仮想診断をしようにも仮想するための選択肢もなかなか思い浮かびません。理由として、部位の特定がままならず、解剖学と触診がまだ追いつきません。そして、症状をだしている部位に対して、原因となっている部位までたどり着くことも思うようにはいきません。

改めて基礎からの勉強を痛感させられています。10月の勉強会のときには皆さんの情報収集の仕方や田中先生のアプローチや考え方を知りたくて、もっぱら聞いておりました。

以下は10月の勉強会でM. Mが受けとらせていただいたことを列挙します。

◆問題部位を見つける視診（Y先生の胸鎖関節）

患者さんに動いてもらって、観察する、動きの全体の中での「ひっかかり＝緊張したところ」を見つける。その「緊張したところ」が問題のあるところ。

◆症状を出している部位と問題部位（治療するポイント）が違うことも。

- ①反ると痛みが出る ← 前側が縮んでいるから、伸ばそうとすると後側が圧縮されて痛みが出る。治療は痛みが出ている腰椎下部ではなく前側の緊張を取る。内臓関連・腹筋・腸腰筋・横隔膜・・・。
- ②胸鎖関節の違和感 ← 肋骨以下に緊張があり足方へ牽引がかかっている。腕を挙上すると鎖骨が胸骨に押し付けられる。治療は、鎖骨や胸骨のみではなく、同側の肋骨・股関節・膝・足・・・。
- ③仰向けで膝を屈曲したまま股関節を屈曲したときの抵抗 ← 反対側の股関節が伸びないから、足の重さが抵抗になる。つまり、治療ポイントは曲がらない方の股関節ではなく、反対の伸びない方の股関節になる。

◆異常な部位の感覚（胆石のT先生）

田中先生の言われていた、「ざわざわ感、ソクソク感」あるいは「嫌な感じ」はM. Mにはわかりませんでした。田中先生とは違った感じをT先生の胆嚢の部位で感じました。ボクには「重たくなる感じ」あるいは「力が抜ける感じ」として伝わってきました。この感覚が体験できたことも大きな収穫でした。問題がある部位、あるいは触ってはいけない部位として「わかる」というのが臨床上の大きな財産となりました。

◆風邪の治療

風邪 → 胸腺 → 棘下筋の痛み

治療：胸腺のNL

◆便秘の治療

蠕動運動の方向へモビリゼーション

- ・ 体幹の捻じれができるように（横行結腸の動きを促す）
- ・ 左の骨盤の前方への動き（S状結腸の動きを促す）

◆治療法の選択

治らない学習をしている可能性があるから、初回の調査票の段階でこれまでの「治らなかった」治療の経験を聞き、そのやり方は使わない。

1年間の「まとめ」と「お礼」

田中先生に、直接教えていただいたのは平成20年1月が初めてでした。田中先生には何かある、と思っていましたが、ここまで深く考えていたことに驚かされました。

身体というもののみならず治療ということ。治療者の姿勢や患者との間のとり方まで。私たちに必要なことがトータルで盛り込まれていました。そしてさらに、これから先にある、栄養学や生化学や脳や心理学などの領域にも田中先生は深く理解されていることを垣間見ました。

今年1月から毎月のように教えていただけてきて、平成20年が私の「出発」の年になりました。(これまでは眠っていました)

「治療者の姿勢」「患者さんとの間の取り方」「評価の仕方」「経験知をあげるために」、などなど。そういったことが身体にしみこむまで、これからも繰り返しご指導お願いいたします。

今年のまとめとして、田中先生がセミナーと勉強会で紹介していただいた内容のなかで、M. Mにとって「特に大切」と思ったことを以下にあげてみました。

#### ◆治療者の姿勢（治療とは）

これは、前回のレポートでまとめさせていただきました。こういったことを改めて教えてもらったり、考えたりする機会はこれまでにはなかったように思います。カイロプラクティック哲学というか、基本姿勢というか。これは大切なことですよね。

#### ◆循環不良が痛みを起こす

筋肉の循環不良だけでなく、内臓の、静脈のうっ血としての循環不良。門脈との関連。これも「目からウロコ」でした。「呼吸器、横隔膜、動脈、静脈、リンパ」これらの脈管系の解剖を理解し、患者さんの身体に起こっているどの流れが阻害されているのかを見分ける力を養いたい。

#### ◆治療後の痛み

使っていなかった筋が働きだして筋肉痛がでる。これも「目からウロコ」でした。「後で痛みが出る」と患者に言っておかなければ、「あそこに行って壊された」と評価されてしまう。予後を伝えられることも技量ですね。

#### ◆部位の特定

ここから始まるんですよね。解剖とバイメカ。来月から東海支部の勉強会では、解剖とバイメカを始めることになりました。カイロを学び始めた人が4・5人いるのですが、もちろんM. Mもやり直したいと思っていました。思えば、8年くらい前でしたか、一宮のS先生の勉強会に大阪から田中先生たちがみえたときに、「今、カパンディーを勉強している」と言われていたように記憶しています。ぼくは、ようやくその重要性に気がつかせてもらったところなのですね。